

# 佐藤卓史 デビュー10周年記念 リサイタルツアー2013

## ベートーヴェン 4大ピアノソナタを弾く

「悲愴」「ワルトシュタイン」「月光」「熱情」

Takashi Sato spielt Beethovens Klaviersonaten



- 静岡 10月3日 (木) 19:00 アクトシティ浜松 音楽工房ホール (浜松市)**  
主催: アспен 後援: 浜松市、公益財団法人浜松市文化振興財団、ヤマハ株式会社、(株)ヤマハミュージックジャパン、一般社団法人全日本ピアノ指導者協会、中国料理ローラン
- 石川 10月4日 (金) 19:00 金沢市アートホール (金沢市)**  
主催: アспен 後援: 石川県ピアノ協会、北國新聞社、株式会社河合楽器製作所金沢店
- 長野 10月5日 (土) 14:00 あづみ野コンサートホール (安曇野市)**  
共催: あづみ野コンサートホール、Gala工房 後援: 信濃毎日新聞社、市民タイムス、松本平タウン情報、週刊まつもと
- 東京 10月9日 (水) 19:00 東京文化会館小ホール (台東区)**  
主催: アспен 後援: (株)河合楽器製作所、株式会社B-tech Japan、月刊ショパン、ナミレコード、日境文化協会、一般社団法人日本ピアノ調律師協会、東京藝術大学音楽学部同声会、東京藝術大学音楽学部附属音楽高等学校響親会
- 愛知 10月12日 (土) 15:00 宗次ホール (名古屋市)**  
主催: 宗次ホール
- 大阪 10月18日 (金) 19:00 あいおいニッセイ同和損保 ザ・フェニックスホール (大阪市)**  
主催: Concerto di Primavera 協賛: あいおいニッセイ同和損保 ザ・フェニックスホール
- 北海道 10月24日 (木) 19:00 札幌コンサートホールKitara小ホール (札幌市)**  
マネジメント: オフィス・ワン 後援: 札幌市、札幌市教育委員会、北海道新聞社、(株)ヤマハミュージックジャパン楽器営業本部ベーゼンドルファー・ジャパン
- 広島 11月4日 (祝) 14:00 カワイミュージックショップ広島5Fホール (広島市)**  
主催: 佐藤卓史ピアノリサイタル実行委員会
- 秋田 11月10日 (日) 14:00 アトリオン音楽ホール (秋田市)**  
主催: 秋田県、AKT秋田テレビ
- 宮城 11月16日 (土) 14:00 ヤマハ仙台店6Fコンサートルーム (仙台市)**  
主催: 佐藤卓史ピアノリサイタル実行委員会 後援: ヤマハミュージックリテイリング仙台店
- 宮崎 11月20日 (水) 19:00 延岡総合文化センター小ホール (延岡市)**  
主催: 佐藤卓史ピアノリサイタル実行委員会 後援: 宮崎日日新聞社、夕刊デイリー新聞社
- 長崎 11月21日 (木) 19:00 アルカス SASEBO 中ホール (佐世保市)**  
主催: ミュールハウゼン・コンツェルトハウス福岡 後援: (株)ヤマハミュージックリテイリング、一般社団法人全日本ピアノ指導者協会
- 福岡 11月22日 (金) 19:00 九州キリスト教会館礼拝堂 (福岡市)**  
主催: ミュールハウゼン・コンツェルトハウス福岡 後援: (株)ヤマハミュージックリテイリング、一般社団法人全日本ピアノ指導者協会
- 愛媛 11月27日 (水) 13:30 萬翠荘 (松山市)**  
主催: クラヴィア企画 後援: 愛媛新聞社、朝日新聞松山総局、南海放送、テレビ愛媛、あいテレビ、愛媛朝日テレビ、愛媛CATV、FM愛媛
- 栃木 11月29日 (金) 19:00 まつぼっくり (宇都宮市)**  
主催: KLASSE
- 千葉 11月30日 (土) 16:00 studio:b (大網白里市)**  
主催: studio:b club (ライブを楽しむ会)

# プログラム Programm

ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン  
Ludwig van Beethoven (1770-1827)

ピアノ・ソナタ 第8番 八短調 作品13「悲愴」  
Sonate Nr.8 c-moll für Klavier Op.13 “Pathétique” (1798-99)  
カール・フォン・リヒノフスキー侯爵に献呈  
*Dem Fürsten Carl von Lichnowsky gewidmet*

- I. Grave - Allegro di molto e con brio
- II. Adagio cantabile
- III. Rondo. Allegro

ピアノ・ソナタ 第21番 八長調 作品53「ワルトシュタイン」  
Sonate Nr.21 C-dur für Klavier Op.53 “Waldstein” (1803-04)  
フェルディナント・フォン・ヴァルトシュタイン伯爵に献呈  
*Dem Grafen Ferdinand von Waldstein gewidmet*

- I. Allegro con brio
- II. Introduzione. Adagio molto -  
Rondo. Allegretto moderato - Prestissimo

休憩 Pause

ピアノ・ソナタ 第14番 嬰八短調 作品27-2「月光」  
Sonate (quasi una Fantasia) Nr.14 cis-moll für Klavier Op.27-2 “Mondschein” (1801)  
ジュリエッタ・グイッチャルディ伯爵令嬢に献呈  
*Der Gräfin Giulietta Guicciardi gewidmet*

- I. Adagio sostenuto
- II. Allegretto
- III. Presto agitato

ピアノ・ソナタ 第23番 へ短調 作品57「熱情」  
Sonate Nr.23 f-moll für Klavier Op.57 “Appassionata” (1804-05)  
フランツ・フォン・ブルンスヴィク伯爵に献呈  
*Dem Grafen Franz von Brunsvik gewidmet*

- I. Allegro assai
- II. Andante con moto
- III. Allegro ma non troppo - Presto

はじめはピアニストとしても活躍していたベートーヴェンにとって、ピアノは最も身近で、扱い慣れた楽器だったのだろう。そのピアノ曲には、ベートーヴェンの創作上のアイディアの原型がふんだんに盛り込まれており、そこでの試作の結果を他のジャンルの作品に応用していくのが常だった。またベートーヴェンの活動時期は、ピアノという楽器の急激な進化の時期とも一致しており、最新の楽器からインスピレーションを得たことや、逆にベートーヴェン自身が作品や楽器製作者への要求を通してピアノの発展に寄与したことも知られている。

ウィーン進出後に作曲したピアノ・ソナタは32曲存在するが、私見ではそのスタイルは作曲年代によって大きく2つに分けることができる。モチーフ操作による楽曲の有機的・普遍的な統合を目指した時期と、対位法を駆使し孤高の内面を投影した時期であり、その境界線は作品57「熱情」と作品78「テレーゼ」の間にあると考えられる。本日演奏する4曲のソナタは、いずれも前者の時代の作品である。

「4大ピアノ・ソナタ」という単語をツァータイトルに冠したが、「大」とは単純に言えば知名度の高さを示している。作曲後ほどなくして第三者が「愛称」を付したこともその人気ぶりの証拠であり、そのタイトルがあることによって更なる人気を得ていることも確かである。どの曲も主題そのものに強烈な魅力があり、とりわけ冒頭部分のインパクトの強さは特筆すべきものである（「悲愴」の低音で強打される主和音、「月光」の瞑想的なアルペジオの波、「ワルトシュタイン」のドライブ感あふれる和音連打、「熱情」の不穏なユニゾン）。冒頭だけではなく、「悲愴」第2楽章の、ベートーヴェン作品中屈指の叙情的な旋律や、「月光」第3楽章の獅子奮迅たる突進、「ワルトシュタイン」の第2楽章・導入からロンドへ至る壮大なクレシェンド（この部分の印象からフランスではこのソナタを「曙」と呼ぶ）など、名場面の多さは群を抜いている。

それだけではなく、前述したモチーフ操作の手法も極めて完成度が高く、特定の素材を楽章の垣根を超えて使用することにより、聴き手にある種の「既聴感」をもたらし、複数の楽章からなるソナタ全体をひとまとまりの「物語」として認識させることに成功している。モチーフ操作について本稿で詳しく述べることはできないが、一部を譜例に示してみた。解説とあわせてご覧いただければ幸いである。

### ソナタ 第8番 八短調 作品13「悲愴」

「悲愴大ソナタ」の題は、長らくベートーヴェン自身が付したものと信じられてきたが、現在では出版社による命名という説が有力である。ピアニストとして活動していた頃のベートーヴェンのデモニッシュな演奏ぶりを彷彿とさせる。

第1楽章は苦悩に満ちた重々しい序奏で開始され、この「グラーヴェ」のセクションがこのあと2回再登場するという特異な構成をとる。第1主題は左手のトレモロの上で右手のスタカート音型の上下行する戦闘的な音楽で、度々なる転調を経て変ホ短調の第2主題に至る。右手が左手を頻繁に飛び越える奏法で、若きベートーヴェンはウィーンの聴衆を驚かせたことだろう。ト短調のグラーヴェのセクションを経て、ホ短調で始まる展開部では、**序奏部に由来するモチーフ**が頻出する。再現部に至るまで強い推進力を維持し、終結前には第1主題と「グラーヴェ」の主題が断片的に交代して緩急のコントラストを成す。

第2楽章は変イ長調の緩徐楽章。室内楽風に紡がれる、慈愛に満ちた主題が、2回の短調のエピソード部を挟んで繰り返される。

第3楽章はロンド・ソナタ形式のフィナーレ。ロンド主題は悲劇的な疾走感に満ち、主題回帰直前の急激な下降音階も強い印象を残す。エピソード部では技巧的なパッセージが頻出し、変イ長調の第2エピソードでは後期ソナタを予感させるような対位法的な展開もみられる。

譜例1 第1楽章序奏部（冒頭）

Musical score for the introduction of the first movement. It features a heavy, somber atmosphere with a prominent bass line and a treble line with chords. The tempo is marked 'Grave' and the dynamics are 'p' (piano).

譜例2 第1楽章第2主題（第51小節〜）

Musical score for the second theme of the first movement. It shows a melodic line in the right hand and a supporting bass line. The tempo is 'Grave' and dynamics are 'p'.

譜例3 第1楽章展開部（第137小節〜）

Musical score for the development section of the first movement. It features a more active and rhythmic texture with frequent chord changes. The tempo is 'Allegro molto e con brio' and dynamics range from 'p' to 'f'.

譜例4 第2楽章主要旋律

Musical score for the main melody of the second movement. It is a simple, lyrical melody in the right hand. The tempo is 'Andante' and dynamics are 'p'.

譜例5 第3楽章ロンド主題（冒頭）

Musical score for the rondo theme of the third movement. It is a lively, rhythmic melody in the right hand. The tempo is 'Allegro' and dynamics are 'p'.

譜例6 第3楽章第2副主題（第79小節〜）

Musical score for the second subsidiary theme of the third movement. It features a more complex, rhythmic texture with frequent chord changes. The tempo is 'Allegro' and dynamics are 'p'.



## ソナタ 第21番 ハ長調 作品53「ワルトシュタイン」

1803年、フランスのピアノ製作者セバスチャン・エラール(1752-1831)はベートーヴェンに新型のピアノを贈呈した。この楽器はそれまでのF1～F6(61鍵)よりも高音域が5度拡大されたF1～C7の68鍵を備えており、ベートーヴェンが初めて所有した「イギリス式(突き上げ式)アクション」のピアノだった。本作はこのピアノを用いて作曲された初のソナタであり、新しい楽器の可能性を試すかのように、あらゆる演奏技巧が駆使されており、前向きで明るく理知的な曲想が特徴的である。

献呈先のフェルディナント・フォン・ヴァールシュタイン伯爵(1762-1823)はベートーヴェンのボン時代からのパトロンであり、友人でもあった。ウィーン進出にも尽力し、1792年の旅立ちにあたっては「ハイドンの手からモーツァルトの精神を受け取りなさい」という有名な言葉を書き送っている。

第1楽章は、突き上げ式アクションの特性を生かした低音域での和音連打で開始され、この圧倒的な推進力が楽章全体を支配する。バスのラインは主音(ド)から属音(ソ)への半音下行を描き、その上で右手が3音・5音の順次進行のモチーフを提示する。ホ短調の経過句を経て、第2主題が異例のホ長調で現れる。コラール風の美しい主題はそれまでの強い推進力からの解放を感じさせるが、モチーフとしては第1主題の素材を引き継いでおり、むしろ確保時に現れる3連符のリズムが新たな要素として成長し、アルペジオの波になる。このように、この楽章においてはリズム単位がブロックごとに変化するが、新しい要素はその途中にさりげなく挿入され、音楽の進行を阻害しないよう工夫されている。度重なる転調とともに徹底した主題労作が行われる展開部を経て、再現部では第2主題が初めイ長調で登場し、イ短調を経て主調のハ長調へ至るという巧みな転調が行われる。ナポリ調の変ニ長調から始まる長大なコーダは、第1主題の各モチーフを用いて展開部と比肩しうほどの盛り上がりを見せ、最後に2つの主題を回想して華やかに閉じられる。

本来このソナタの緩徐楽章には長大なロンド形式の楽章が用意されていたが、友人たちの意見で却下され、後に「アンダンテ・ファヴォリ」へ長調(WoO57)として発表された。新しく書き足された「導入部」はロンドに切れ目なく続く序奏的な性格を持つ。バス声部には第1楽章冒頭と同様に主音から属音へ至る下行半音階が現れ、調性が不明瞭で深く瞑想的な印象を与えている。

やがてのびやかなロンド主題がppの分散和音の上に提示される。特徴的なのは、作曲家自身によって指示された長いダンパーペダルで、アルプスの山々に遠く響るかのような広がりのある響きが意図されている。第1エピソードはアルペジオや分散オクターヴを多用した技巧的パッセージ。第2エピソードはハ短調の切迫した雰囲気が始まり、やがてロンド主題の冒頭部分だけがモチーフ的に扱われるようになる。プレスティッシモのコーダでは、ロンド主題が変奏的に展開され、オクターヴグリッサンドや長いトリルなどの華麗な技巧を盛り込みながら、歓喜を迸らせて力強く曲を閉じる。

譜例7 第1楽章第1主題(冒頭)

Allegro con brio

21. *pp*

半音下行

*cresc.*

*f*

*decresc.*

*pp*

譜例8 第1楽章第2主題(第35小節～)

*dolce e molto legato*

*cresc.*

*f*

譜例9 第2楽章・導入部(冒頭)

Adagio molto

*pp*

*cresc.*

譜例10 ロンド・ロンド主題(冒頭)

Allegretto moderato

*sempre pp*

*cresc.*

譜例11 ロンド・コーダ(第403小節～)

Prestissimo

*p dolce*

*cresc.*

## ソナタ 第14番 嬰ハ短調 作品27-2 「月光」

作品27の2曲のソナタは「幻想曲風ソナタ」のタイトルで発表された。いずれも第1楽章に通常のアレグロ＝ソナタ形式の楽章を置かず、楽章間をアツカで（切れ目なく）演奏するように指示されている。古典的な多楽章ソナタの構成から自由に逸脱し、ソナタ全体をひとまとまりのものとして構成しようとする革新的な意志が、「幻想曲風」の語にも表れている。

作品27の第2曲にあたる本作は、アダージョ・ソステヌートの緩徐楽章から開始される。その仄暗く幻想的な雰囲気は、詩人ルートヴィヒ・レルシュタープ（1799-1860）に「湖に浮かぶ小舟が、月光が弓引き起こす波に揺られている」さまを想起させ、ここから「月光」の通称が冠された。印象的な付点のリズムで始まるメロディーは、しかし旋律というにはあまりにもストイックであり、むしろ3連符のアルペジオとオクターヴで重ねられたバスが音楽を主導する。冒頭に記された *senza sordino* の指示は、ダンパーペダルを踏みつばなしにして、弦の振動を解放したまま楽章全体を演奏することを意味している。

第2楽章は変ニ長調の舞曲風のアレグレットで、闇の底に降下するかのような前楽章の終結のあとで、どこか聴き手を安堵させるような趣がある。やがてシンコペーションが多用されてリズムに変化が生まれ、中間部では更にスフォルツァンドで強調されて活気が漲る。

第3楽章はソナタ形式によるフィナーレで、全曲の中心的な役割を担う。突進するようなアルペジオとアクセントが連続する激しい第1主題のあと、嬰ト短調の第2主題が左手のアルベルティ・バスの上に現れる。展開部ではバスのドミナントペダル（属音保続）の上に新しい主題が現れるが、これは第1楽章の冒頭から続いてきた順次下行のラインを変奏したもので、各楽章間に見事な統一をもたらしている。コードではアルペジオの激奏がクライマックスを形作り、静謐なアルペジオで始まったこの作品は、全く性格の異なるアルペジオによって閉じられる。

## ソナタ 第23番 ヘ短調 作品57 「熱情」

前述したエーラールピアノのF1～C7の全音域が初めて使用された本作には、「ワルトシュタイン」の明快な理念の世界とは対照的に、暗くドラマティックな情念が渦巻いている。「熱情」（アパッショナータ）の通称は作曲者の死後に付けられたものだが、実にその内容にふさわしい。モチーフ操作も極めて巧みに展開されており、表現と技法が高い次元で融合している点において、ピアノ・ソナタの歴史に残る最高傑作のひとつとあって過言ではないだろう。

不穏な2オクターヴのユニゾンで始まる第1楽章第1主題部において、その後敷衍されていく重要なモチーフがほぼすべて提示される。すなわち、分散和音、ド・レドのような山形の順次進行、同音連打音型、鋭い長短のリズム（ここでは5:1だが、後に付点や複付点に変容する）、♪♪♪のいわゆる「運命の動機」（「運命」交響曲のスケッチはこの時期に始まった）、ナボリの和音、荒々しい減七の和音。これら、開始16小節までに登場する要素によって、全曲が統一されていくという構造は驚くべきものである。

譜例12 第1楽章（冒頭）

Adagio sostenuto  
Si deve suonare tutto questo pezzo delicatissimo e senza sordino

譜例13 第2楽章（冒頭）

Allegretto  
La prima parte colla medesima volta

譜例14 第3楽章第1主題（冒頭）

Presto agitato

譜例15 第3楽章展開部の一部（第87小節～）

連打音上での変イ短調の経過句を経て、変イ長調の第2主題が始まる。それまでの緊迫感とは一変してリラックスした雰囲気だが、要素としては第1主題の分散和音と鋭い長短リズムを引き継いでいる。変イ短調の第3主題は嵐のごとき分散和音のパッセージで、ミステリアスな第1主題、穏やかな第2主題と好対照を成す。展開部では、第1主題、経過句、第2主題による展開が行われ、やかに持続する減七和音のアルペジオと激しい運命の動機で頂点を迎える。コードは2部分に分かれ、変ニ長調で始まる前半では、ナポリの和音からの怒濤のアルペジオでクライマックスを築く。テンポが上がる後半では第2主題を中心に展開が行われ、最後はトレモロ上に主題の断片が出現、pppで闇の中へ消えていく。

第2楽章は変奏形式。コラール風の主題は静謐かつ神々しさを湛えたもので、山形音型が随所に顔を出すほか、複付点や付点の鋭い長短リズムが動きを与えている。第1変奏は左右の手による影踏みのようなシンコペーション、第2変奏では右手に分散和音が登場し、第3変奏では更に細かい分散和音の上に旋律が輝かしく歌われる。第4変奏では再び冒頭の落ち着きが戻り、不穏な減七の和音から終楽章に突入する。

第3楽章は警報の如き減七の和音の連打で幕を開ける。16分音符の奔流に乗って低音域で提示される第1主題は分散和音と山形の音型を組み合わせたもので、ナポリの和音も早々に顔を出す。第2主題はハ短調で、ナポリから始まる6の和音の並進行が特徴だが、16分音符の激流の中にあるため主題としての独立性は弱い。展開部でも激流は続き、山形の音型に基づくシンコペーションのモチーフが新たに出現、ナポリや減七の和音が低音域から高音域まで駆け上がる激しいアルペジオで奏された後、再現部で定石通りの再現が行われる。加速してなだれ込むコードでは、怒気を孕んだ和音連打が第1主題のパッセージへと変貌し、怒濤の分散和音を発散しつつ叩きつけるように終結する。

ベートーヴェンのピアノ・ソナタにおけるモチーフ操作の技法は、この作品で完成したといつてよい。作曲家自身もそれを意識していたのだろう、しばらくピアノ・ソナタの創作から離れ、4年後に着手される作品78からは、孤高の後期様式への模索が始まることになる。

譜例16 第1楽章第1主題(冒頭)

譜例17 第1楽章第2主題(第35小節~)

譜例18 第1楽章第3主題(第51小節~)

譜例19 第2楽章主題(冒頭)

譜例20 第3楽章第1主題(第20小節~)

譜例21 第3楽章展開部の一部(第142小節~)



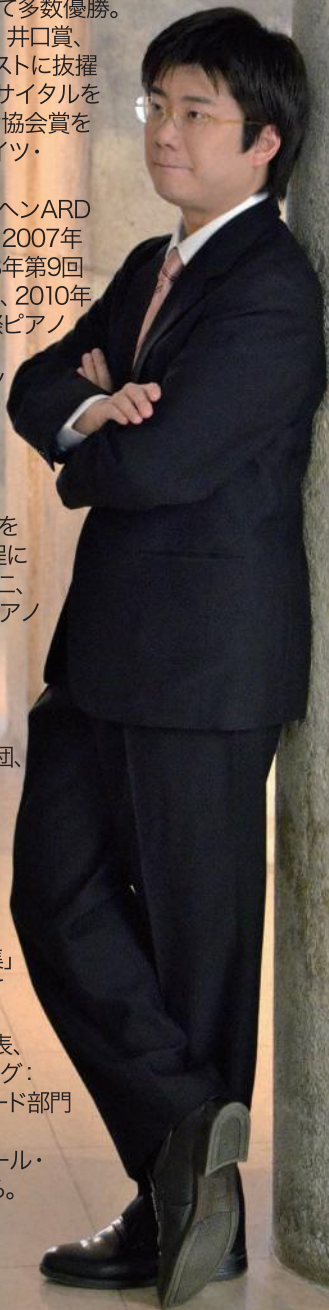
## 佐藤卓史(さとうたかし)

1983年秋田市生まれ。4歳よりピアノを始め、国内の学生コンクールにて多数優勝。2001年第70回日本音楽コンクールピアノ部門第1位、あわせて野村賞、井口賞、河合賞、三宅賞を受賞。2003年東京芸大シンフォニア英国公演のソリストに抜擢され、イギリス各地で協奏曲を演奏。東京など全国4都市でデビューリサイタルを開催、その成功により同年秋田市文化選奨を、翌年第30回日本シヨパン協会賞を受賞(いずれも史上最年少)。2006年東京藝術大学を首席で卒業、ドイツ・ハノーファー音楽演劇大学に留学。

以来国際舞台においてもめざましい活躍を遂げ、2006年第55回ミュンヘンARD国際音楽コンクール特別賞(20世紀作品の最も優れた演奏に対して)、2007年第11回シューベルト国際ピアノコンクール第1位ならびに特別賞、2008年第9回シドニー国際ピアノコンクール第4位ならびに最優秀シヨパン演奏者賞、2010年エリザベート王妃国際音楽コンクール入賞、2011年第21回カントゥ国際ピアノコンクールクラシック部門第1位、第10回メンデルスゾーン国際ピアノコンクール最高位(第1位なしの第2位)、2012年第8回浜松国際ピアノコンクール第3位ならびに室内楽賞など、数々の受賞を通して日本を代表する若手ピアニストとしての地位を確立。ヨーロッパ各地の演奏会に出演したほか、2011年には在シリア日本国大使館・国際交流基金の支援を受けシリア・ダマスカスにてソロリサイタルを開催した。2011年ハノーファー音楽演劇大学ソロクラスを修了し、ドイツ国家演奏家資格を取得。2013年までウィーン国立音楽芸術大学ポストグラドゥアー課程に在籍し研鑽を重ねた。これまでにピアノを目黒久美子、上原興隆、小林仁、植田克己、アリエ・ヴァルディ、ローラント・ケラーの各氏に、フォルテピアノを小倉貴久子氏に師事。また故ハリーナ・チェルニー＝ステファンスカ、クラウス・シルデ、ジャック・ルヴィエ、故レギーナ・スメンジャンカ、ロバート・レヴィンをはじめとする世界的巨匠からも指導を受けた。東京フィルハーモニー交響楽団、東京交響楽団、大阪センチュリー交響楽団、日本フィルハーモニー交響楽団、大阪交響楽団、シドニー交響楽団、ベルギー国立管弦楽団など内外のオーケストラと多数共演。また室内楽奏者としても国際的に評価が高く、カール・ライスター、堀米ゆず子、山崎伸子、堀正文、篠崎史紀、渡辺玲子、藤森亮一、佐藤俊介、米元響子、神尾真由子など数多くの著名アーティストと共演を重ねている。2012年にはエリザベート王妃国際音楽コンクールヴァイオリン部門の公式ピアニストを務めた。

2007年にソロデビューアルバム「ラ・カンパネラ～珠玉のピアノ小品集」(ナミ・レコード)をリリース以来、レコーディング活動も積極的に行っており、これまでにシューベルト作品集(ドイツ・BELLA MUSICA)、シヨパン作品集、ブルクミュラー兄弟作品集(ナミ・レコード)などを発表、各紙誌で紹介され話題を集めている。佐藤俊介との共演による「グリーグ：ヴァイオリン・ソナタ集」(ナミ・レコード)は第62回文化庁芸術祭レコード部門において《大賞》を受賞した。

2013年秋、活動拠点を再び日本に移し、デビュー10周年を記念してオール・ベートーヴェン・プログラムによる全国ソロリサイタルツアーを実施する。実力派ピアニストとして更なる活躍が期待されている。



# Takashi SATO Albums

## NEW ALBUM

佐藤卓史渾身のベートーヴェン、第1弾は「ワルトシュタイン」「熱情」を含む中期作品集。ウィーンでの白熱のレコーディングを収録。



### ベートーヴェン:ピアノ・ソナタ 第21~23番、ほか ベートーヴェン:

ピアノ・ソナタ 第21番 八長調 作品53「ワルトシュタイン」  
アンダンテ・ファヴォリ へ長調 Wo057  
ピアノ・ソナタ 第22番 へ長調 作品54  
ピアノ・ソナタ 第23番 へ短調 作品57「熱情」

ピアノ:佐藤卓史 (パーゼンドルファー モデル275使用)

2013年7月10~12日, onepoint.fmスタジオ (ウィーン) にて収録  
Tactual Sound TSCP-0001 定価2,625円 (税込)



### 伝説的ピアノ指導者と夭逝の天才 ブルクミュラー兄弟ピアノ作品集

F.ブルクミュラー:25の練習曲、  
N.ブルクミュラー:ピアノ・ソナタ、  
ポロネーズ、ワルツ、ラプソディー  
ナミ・レコード WWCC-7704 ¥2,625



### 佐藤卓史による新時代のショパン、第1弾 ショパン:ピアノ・ソナタ 全3曲

ショパン:ピアノ・ソナタ 第1番~第3番  
ナミ・レコード WWCC-7609 ¥2,625



ショパン第2弾、有名無名の小品12曲  
ショパン:舟歌、その他の小品  
ショパン:ロンド、「スイスの少年」変奏曲、  
レイト・コン・グラン・エスプレッジオーネ、  
タランテラ、幻想曲、子守歌、舟歌、ほか  
ナミ・レコード WWCC-7624 ¥2,625



デビューアルバム  
ラ・カンパネラ~珠玉のピアノ小品集  
バッハ:3声のシンフォニア第11番、フンメル:  
ロンド、シューマン/リスト:献呈、リスト:ラ  
カンパネラ、モーツァルト:アンダンテ、ほか  
ナミ・レコード WWCC-7546 ¥2,625



シュベルト国際コンクール(優勝記念盤)  
Intl. Schubert-Wettbewerb  
2007 Takashi Sato  
シュベルト:楽興の時、  
3つのピアノ曲、4つの即興曲  
BELLA MUSICA CTH-2555 ¥2,500



エリザベート王妃国際コンクール  
2010ライヴ 佐藤卓史  
モーツァルト:ピアノ協奏曲 第17番、  
ベートーヴェン:ピアノ・ソナタ 第32番、  
ジョン・ミンジェ:ターゲット、ほか  
Off The Records TS-2010 ¥2,000

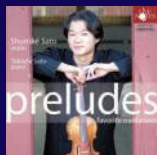
### 平成19年度文化庁芸術祭大賞受賞 グリーグ:ヴァイオリン・ソナタ集

グリーグ:ヴァイオリン・ソナタ 第1~3番  
佐藤俊介(vn) 佐藤卓史(pf)  
ナミ・レコード WWCC-7561 ¥2,835



### 往年の巨匠の愛奏曲たち preludes

ガーシュウィン:3つの前奏曲、ボンゼ:エスト  
レリータ、モシュコフスキー:ギターレ、ほか  
佐藤俊介(vn) 佐藤卓史(pf)  
ナミ・レコード WWCC-7520 ¥2,835



浜松市楽器博物館コレクションシリーズ  
ラ・ヴァルス ~華麗なるデュオ・ピアノの世界  
シャブリエ:3つのロマンティックなワルツ、  
ラヴェル:ラ・ヴァルス、ほか  
小倉貴久子&佐藤卓史(pf)  
ゴジマ録音 LMCD-1926 ¥3,045



忘れられた女性コンポーザーピアニスト  
森の精~シャミナードピアノ小品集  
シャミナード:森の精、ガヴォット、  
スカーフの踊り、エレジー、子守歌、  
ピエレット、秋、昔、優しいワルツ、ほか  
佐藤卓史ライヴワークス TLW-M02 ¥1,500



ひまわりの郷リサイタルシリーズライヴ  
ドイツ 幻想の森  
ベートーヴェン:ピアノ・ソナタ 第13番、  
ブラームス:6つの小品、メンデルスゾーン:  
無言歌集より、シューマン:謝肉祭  
佐藤卓史ライヴワークス TLW-002 ¥2,000



ひまわりの郷リサイタルシリーズライヴ  
シュベルトのタバ  
シュベルト:楽興の時、3つのピアノ曲、  
ピアノ・ソナタ 第20番  
佐藤卓史ライヴワークス TLW-001 ¥2,000

